



106 回切手教室

「切手の画像 2 万種を 楽しんでみませんか」



2014/6

内容

電子画像の取得と楽しみ方

お渡しDVDの扱い方

邪道の歩き方



切手の水はがしに該当

電子画像の収集

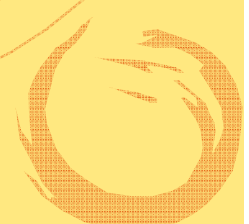
①実物をスキャン

a 解像度 ピント 画質調整 水平調整
新発行日本切手 シートスキャン 分割
透明ストックブック、アルバムスキャン

b ファイル名に統一性、ファイル名の記録

②ネットからダウンロード

個別にロード HPごとロード
その後、画質等吟味し、上記 a,b



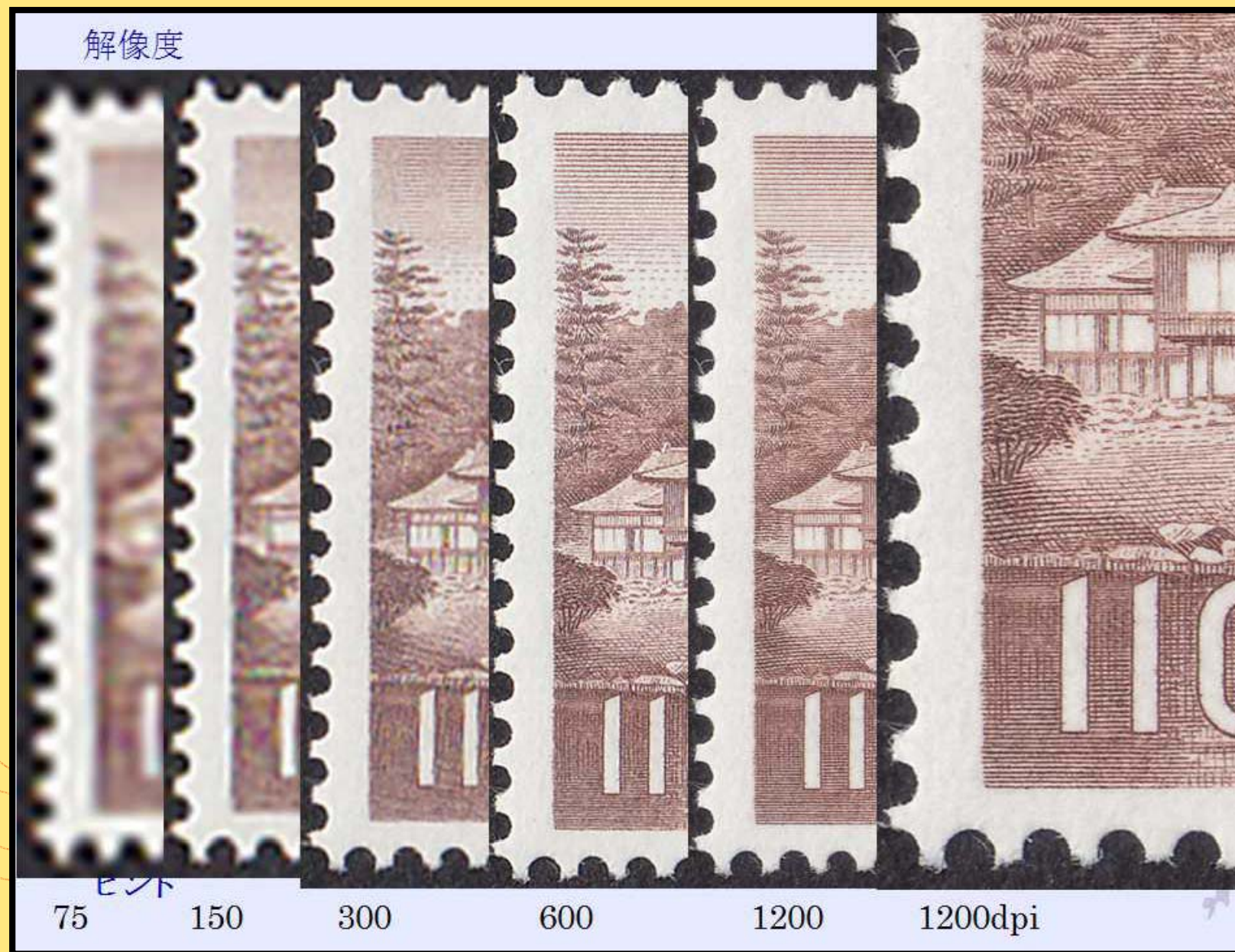
新発行切手スキャン



郵便会社HPより 72dpi

自己スキャン 400dpi

スキヤンの解像度による差

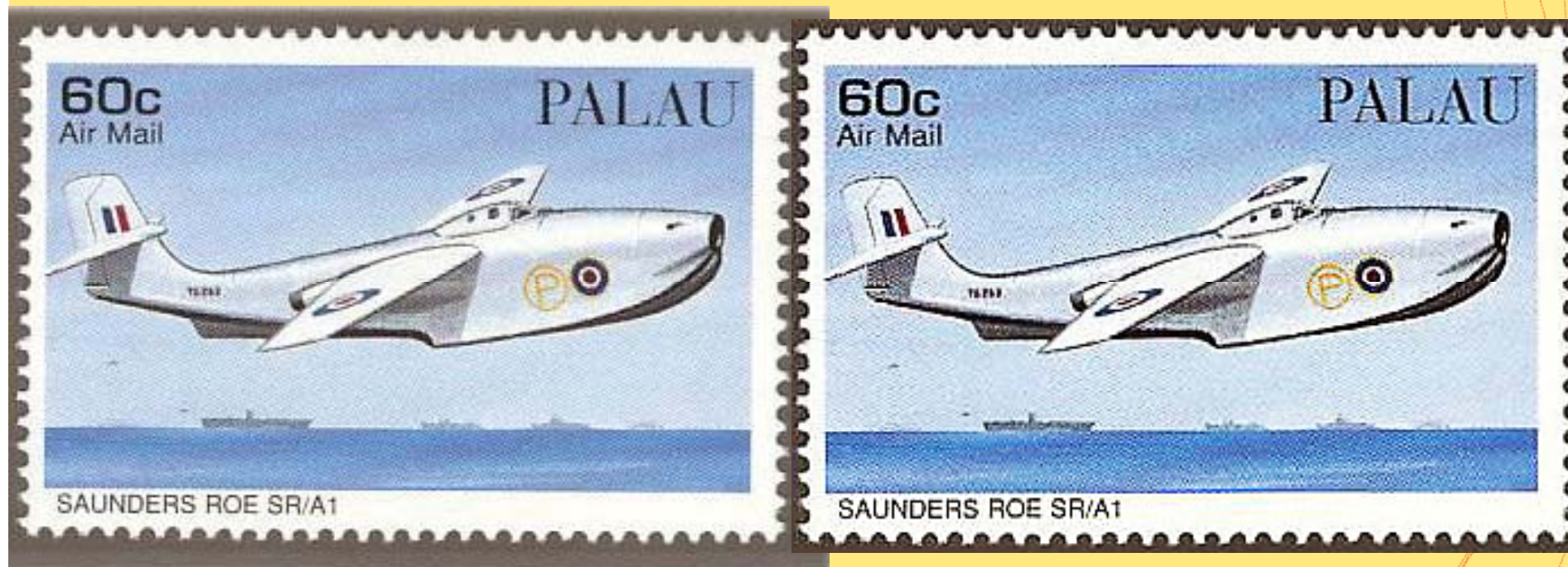


画像の補正作業

個人HP

個人のサイトから
取得画像

補正後の画像



200dpi画像

水平調整、トリミング
シャープフィルター、色調補正



UPUサイトからの画像補正



色調補正



ベルギー

2008 Foreign Masterpieces in Belgian Collections
300dpi



ファイルの整理

1次ホルダー（空き箱）

500種程度で2次に整理
取得先別も有効

ネット

スキャン自作

2次ホルダー（ストックB.）

目的別ホルダー（国別ストックB. トピカルB.）
ファイル名の記録と切手情報を記録
（ストックブックの切手に付箋紙）

ファイル名、記載情報の一覧表を作成 Excel
（付箋紙綴りをつくる）

ファイル名の変更は極力避ける。

ファイル名の手入力はタブー

ファイル名を文字として一括、コピー可能な

FILERソフト必需

2次ホルダー毎の
Excelファイル
（所持切手記録ノート）

データ

目的切手文書FILE
切手アルバム

画像

クリスマス切手の電子ストックブック一覧



スウェーデン

国別整理

フィンランド



2002 年



2003 年



2004 年



2005 年



2002 年



2004 年



2006 年



2008 年



2010 年



2011 年



2003 年



2005 年



2007 年



2009 年



オーストリア鉄道切手 電子ストックブック

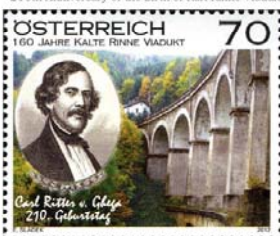


オーストリア鉄道切手電子アルバムリーフ

セメルング鉄道



2001 発行
世界遺産指定記念
2012 発行
210th Anniversary of the Birth of Karl Rinne Viadukt

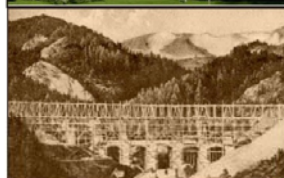
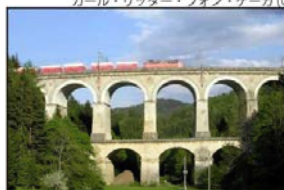


セメルング鉄道の設計者
カール・リッター・フォン・ゲーガ (Carl Ritter von Ghega)



高架構橋、100を超える石橋に11の鉄橋がある。また、土木工事（トンネル掘削・橋梁架橋など）に際しては、自然との調和が重要な課題とされており、このことが世界遺産認定について大きく評価された。

セメルング鉄道を含む路線は、首都・ウィーンと、オーストリア南部の都市（グラーツ、クラゲンフルト、フィラッハ）、国外の都市（イタリアのヴェネツィア、スロベニアの首都・リュブリャナ、クロアチアの首都・ザグレブ）とを結ぶ、オーストリア連邦鉄道（ÖBB）の重要幹線の一つである。このためセメルング鉄道は、開業時とは異なり電化こそされているものの、開業から150年以上が経過し、世界遺産に登録された現在でも現役であり、上記の都市を結ぶ特急列車が1時間間隔で通過するほか、イタリアの首都・ローマとを結ぶ夜行列車や、多数の貨物列車も通過する。



1971 年 快速鉄道運行開始
セメルングを走行する快速列車



エンゲルト機関車

セメルングの開通で必要になったのが強力な蒸気機関車である。そのため、いくつかの機関車が開発された。セメルングで活躍したのがエンゲルト機関車であった。フランス、スイスでも必要とされた。オーストリアでは1930年代まで運行した。



世界遺産登録基準における以下の基準を満たしたと見なされ、世界遺産登録がなされた。

ある期間を通じてまたはある文化圏において、建築、技術、記念碑的芸術、都市計画、景観デザインの発展に関し、人類の価値の重要な交流を示すもの。

人類の歴史上重要な時代を例証する建築様式、建築物群、技術の集積または景観の優れたもの。

世界遺産に登録された他の鉄道
ニルギリ山岳鉄道、ダーズリン・ヒマラヤ鉄道

Achensee 鉄道 100 年



チロル州都インスブルック近くイェンバハから北ヘイツ国境近くの景勝地アーヘン湖への狭軌鉄道。距離 6.7 km で標高差 430 m を蒸気機関車で運行。急勾配の区間はアプト式（アプト式機関車には「ラックホイールピニオン」という坂道専用の歯車が付いていて、線路の真ん中に敷設された「ラックレール」という歯形レールを噛み合わせて坂道を上り下りする）で運転している。



急こう配区間に敷設されたラックレール

機関車中央部に見える歯車ラックホイールピニオン



Schafberg 鉄道 100 年



1893 年シャーベルク鉄道は開通。ザルツブルグの東、ヴォルガング湖の聖ヴォルフガング駅からシャーフベルク山の頂上に運行。シャーフベルク山鉄道のオープニング式典が 8 月 1 日に開催されました。出発駅海拔 542m、山頂駅 1732m、標高差 1200m をわずか 5.85 km で走る急勾配の山岳鉄道。勾配対策としてアプト式の鉄路を採用し、機関車も設計段階から傾斜を持った車体にして乗務員の運転環境に配慮している。蒸気機関車も残るが最新式のディーゼル運行の SL 型機関車をも 1 運行定員 20 人が限度である。山頂には宿泊施設もあり、観光客にぞわい、予約しての利用が必要。



ヴォルガング湖からシャーフベルク山頂

